

第46回

手づくりのぬくもり

郷土のさしこ展

2階 館蔵品展



ソリヒキハッピー姿

開催期間 1987年7月22日(水)～10月4日(日)

開館時間 9時30分～16時30分

休館日 月曜日・祝日

入館料 大人100円・児童生徒50円

酒田市立資料館

酒田市一番町8-16 TEL(0234)24-6544

開催にあたって

昔、麻や木綿しかなかった頃、丈夫で長もちし、しかも暖かさを保つようにという願いをこめて布に一針一針刺すことによって生れたのがさしこといわれています。庄内さしこはこのように庶民の生活の中から、そして家族への思いやりがつくりだした手仕事として祖母・母から子へと伝えられてきた実用性にとむ貴重な民俗服飾遺産といえます。

今回、酒田市・遊佐町・平田町に残っている昔のさしこや現代生活に適応した斬新なデザインのさしこを展示しさしこの持ち味と美しさにふれていただければ幸いです。

展示にあたり、大事な品々をご提供下された方々に心から厚くお礼申し上げます。



漁家のさしこ姿

農家のさしこ姿

庄内さしこによせて

庄内さしこは青森の津軽こぎんざし、南部ひしざしとともに東北を代表するさしこのひとつにかぞえられています。

庄内地方に木綿が入ってきたのは、江戸時代に西回り航路が開かれ、関西方面から移入されしだいに普及してきたといわれています。

庄内藩政のころ、衣服の検約令がしかれ「百姓は模様半纏は無用なり」と禁止されましたが、一度白糸で模様刺をして再び藍に染め模様をかくす「かくれ刺」をして野良着や漁着に使用したともいわれています。

庄内の厳しい風土の中に生きる農民漁民の生活の知恵として、庄内の女たちは一枚の布を大切に大切に、気の遠くなるほどの数を、一針一針さすことによって布を丈夫にし、どんな労働にも耐える布が生みだされました。

防寒や生地への補強、補修を目的として生まれた庄内のさしこには庄内の女らしい願いや、すばらしい心がそれぞれの模様にも編み出されているのが特長です。

庄内ざし独特の模様といわれる花ざし、米ざし、そろばんざし、菱ざし等、そのひとつひとつに願いがこめられています。花ざしは特産「庄内柿」を表現し、作物の虫よけを願いました。また、米の文字を形にした米ざしは、庄内平野の豊年を、浜の女たちが好んでさしたといわれる波ざしは庄内浜の大漁を願い、商売繁昌にはそろばんざしと、それぞれの願いを込めて今に伝えられています。

庄内さしこは布地を選ばないことも特記すべきことで、どんな布にでも複雑な幾何学模様をさしあげた庄内の女たちの高度な技術とぬくもりが感じさせられます。

館蔵品展示目録

考古

城輪柵跡出土品 52点

武具

革包日の丸紋二枚胴具足 1領

二枚胴具足 1領

素懸紺糸威二枚胴具足 1領

素懸紺糸威龍紋二枚胴具足 1領

紺糸威最上胴丸 1領

紺糸威二枚胴丸 1具

星兜 1頭

鐙・鞍 各1具

市文 蕨手刀 吹浦出土 1振

工芸

擬宝珠、亀ヶ崎城大手門前の橋 大1・小1

光丘彫 煎茶手前器局、舟型花器、茶簞筥ほか 23点

獅子頭 3点

船簞筥 2棹

本間家御用簞筥 1棹

銭箱 1個

模型

北前船 1点

飛島丸 1点

人形

酒田祭行列紙人形 1点

亀鉾行列人形 1点

その他

絵馬、金刀比羅宮祈禱札、市文鳥海山模型

大嘗宮儀用武官佩刀、陣笠、佐藤政養彫

酒田大火資料 写真、状況図、焼あとからでたもの等

飛島資料 長崎丸遺品貯水器、ギヤマングラス、写真等